

成果報告書

佐藤美乃

慶應義塾大学 総合政策学部 3年

長谷部葉子研究会 コンゴ民主共和国プロジェクト

2024年1月29日から2024年2月20日迄、アフリカ中部に位置するコンゴ民主共和国へ学生2名で渡航した。長谷部葉子研究会コンゴ民主共和国プロジェクトとしては2019年の渡航以来5年ぶりの渡航だったが、現役メンバーは全員コロナ禍で入ゼミした為、個人としては初めてであり、念願の渡航だった。また、長谷部葉子准教授がその他の業務があり、この時期に国外でのフォールドワークを行うことが困難であった為、学生2名のみでの渡航となった。現地では、日本文化センター(以下CCJ)でマネージャーを勤める Jeandie Ilonga 氏(以下 Ilonga 氏)のお宅でホームステイを行い、行動を共にした。以下に3週間の滞在をまとめる。

1. CCJ 訪問

- CCJ を訪問。カルタや折り紙、日常の会話の中からこれまでオンラインで繋がってきた CCJ の先生・生徒と交流。彼らと多くの時間を共にし、一人ひとりと友人関係を築き、帰国後も関係性は変わらず連絡を取り続けている。

2. 現地高校にてそろばんワークショップの開催

- CCJ の元生徒が教鞭をとる高校にてそろばんのワークショップを開催した。そろばんは日本から25本持っていき、教材は印刷して持って行った。高校生たちはそろばんという初めての日本文化に興味を示してくれ、たった30分でそろばんで一桁の計算ができるようになった。

3. Japan in Congo の開催

- コンゴで日本文化を体験できるイベントを「Japan in Congo」と称し、コンゴ人と日本人の私たちが共同開催した。当日に向け、CCJ の先生、生徒と共に折り紙で装飾作りを行い、折り紙を教えた。当日は日本語の挨拶ワークショップ、浴衣ワークショップ、縁日(射的・ヨーヨー)、焼きそばを用いたお箸ワークショップ、そろばんワークショップを行い、日本に関心を持つコンゴ人、JICA の方、大使館の方など計40人以上の方が参加してくれた。以下にイベント内容の詳細を記載する。
- 日本語の挨拶ワークショップは、日本からオンラインでプロジェクトメンバーと繋がり、対面オンラインのハイブリッド開催をした。浴衣ワークショップでは、CCJ にある浴衣を用い、参加者のコンゴ人に浴衣の着方をレクチャーした。縁日ワークショップでは、事前に CCJ メンバーと割り箸と輪ゴムで作った鉄砲と日本のお菓子で射的を行い、日本で購入したヨーヨーキッドでヨーヨーを行った。お箸ワークショップでは、焼きそばを参加者に配布し、日本料理を楽しんでいただきながら、お箸の使い方をレクチャーした。焼きそばは、前日に Ilonga 氏と共に作ったが、停電などもあり、完成までに5時間かかった。また、材料も日本で購入した焼きそばソースはあったものの、麺がなかった為、現地のスーパーでパスタを購入し、急遽焼きそば風パスタとした。そろばんワークショップは私が幼い頃から続けてきたそろばんをコンゴの方に伝えたいと思い、3年前の同イベントから毎年開催してきた。これまではオンラインでアプリなどを駆使し、そろばんを教えていたが、今回は初めて対面でそろばんを教えることができ、自分のスペシャリティを生かしたコンテンツとなった。

以下に当日メモをした感想を記載する。

感想〈Good〉

- 最終的に人が40人以上きた。

- ・ 活動内容が何ひとつ削られず予定通りに進んだ。
- ・ オンタイムで終わった。
- ・ 参加者が楽しそうだった。
- ・ 日本の文化を体験するイベントをコンゴ人と日本人が共に作り上げた。
- ・ CCJ の生徒が通訳をしてくれた。先生だけではなく、生徒も通訳できる様になっている。
- ・ 着物の着方をコンゴ人がサポートしてくれた。
- ・ コンゴ人も日本人も「自分達で作っているイベント」という意識があり、それぞれができることを常に探し、行動していた。
- ・ ハプニングが多かったが、解決策をすぐに見つけて、flexibility に動いた。
- ・ 当日使用しようとしていた、ホットプレートのコードがなく、日本人は絶望したが、コンゴ人は絶望の前にできることを考え、5分後に使用できるキッチンコンゴ人が見つけ出してくれた。

感想 (bad)

- ・ コンゴ人が時間通りにこなかった。時間通りに来ないことを見越して 10 時開始と告知して、実際の開始時間は 10:30 だった。これまでのイベント開催の際は 10:30 始まりの時は 9 時開始として告知していたという。そうすれば中には 9 時に来る人もいるけど、10:30 にみんな来ると聞いた。今回もそうするべきかと思っただ、9:00 にきちんと来る人も中にはいるから、その人たちを 1 時間半も待たせることはできないと思い、10:00 集合にした。結果やはり来ず、10:30 になった際にきていたのは、日本人 3 人コンゴ人 3 人だった。
- ・ ご飯の時間に一気に急に人が来た。焼きそばを配る前に頭数を数え、この人数なら足りると思っていたが、急に人が増えたことで足りなくなってしまった。お金をいただいている以上食事を出さないわけにはいかないと、急遽近くのお店にパスタを買いに行った。

(2024 年 2 月 10 日 日記より)

4. 在コンゴ日本大使館、及びコンゴ民主共和国 JICA 事務所訪問

- 在コンゴ日本大使館、及びコンゴ民主共和国 JICA 事務所を訪問した。コンゴプロジェクトが最後に渡航してから 5 年もの年月が経っている為、新しい方が多くなっており、関係性を紡ぐという意味でも大切な訪問となった。また、滞在中に大規模なデモがあり、到着の翌日に大使館の方々にご挨拶をしていたことで関係性ができており、サポートをしていただくことができた。

現地での滞在を残り 1 週間にしたところで反政府武装勢力である M23 がコンゴ東部を攻撃し、それに関連する反乱が激化したことで、日本大使館から外出自粛を要請され、最後の 1 週間は自宅で過ごした。そのため、企画していた孤児院訪問などができなくなってしまった。だが、ステイホーム期間で、Ilonga 氏の兄弟と関係性を紡ぎ、絆を深めることができた。彼らと過ごした時間は本当に楽しく、生活の中からコンゴ文化に触れることができ、彼らは私の本当に大切な家族になった。企画していたことが全てできた渡航ではなかったが、「人間関係」という企画以上に大切なものを得た渡航であった。今回の渡航で、CCJ メンバーや Ilonga 氏とその兄弟は私がコンゴに戻りたいと思う理由になった。彼らに会いにまた必ずコンゴに渡航する。

最後に

今回の渡航費用を援助して下さった湘南学会の皆様に深く御礼申し上げます。